

Title	看護師による入院患者への口腔ケアの取り組みの現状
Author(s)	伊多波, 怜子; 奥井, 沙織; 合原, 愛; 竹下, 陽子; 馬場, 里奈; 岩崎, 美和; 藤平, 弘子; 高木, 幸子; 大塚, 裕; 蔵本, 千夏; 渡邊, 裕; 外木, 守雄; 山根, 源之; 園田, 満子; 安達, 富美子; 鈴木, 福代; 杉原, 直樹; 松久保, 隆
Journal	歯科学報, 106(4): 267-272
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/127">http://hdl.handle.net/10130/127</a>
Right	

## 看護師による入院患者への口腔ケアの取り組みの現状 看護師へのアンケート調査をもとに

伊多波怜子<sup>1)</sup> 奥井沙織<sup>1)</sup> 合原 愛<sup>1)</sup> 竹下陽子<sup>1)</sup> 馬場里奈<sup>1)</sup>  
 岩崎美和<sup>1)</sup> 藤平弘子<sup>1)</sup> 高木幸子<sup>2)</sup> 大塚 裕<sup>2)</sup> 蔵本千夏<sup>2)</sup>  
 渡邊 裕<sup>2)</sup> 外木守雄<sup>2)</sup> 山根源之<sup>2)</sup> 園田満子<sup>3)</sup> 安達富美子<sup>3)</sup>  
 鈴木福代<sup>4)</sup> 杉原直樹<sup>5)</sup> 松久保 隆<sup>5)</sup>

抄録：高齢社会の到来で、要介護者や障害者などに対する口腔ケアの必要性が認識されてきている。東京歯科大学市川総合病院では入院患者に対し、本人による口腔ケアが困難な場合、必要に応じて歯科医師・歯科衛生士が専門的口腔ケアを実施し、看護師が日常的口腔ケアを行っている。そこで今回我々は、看護師による口腔ケアの内容および実施状況と、口腔ケアに関する知識、意識を把握するためにアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果、看護師の口腔ケアに対する意識は高く、全員の看護師が今後も積極的に取り組んでいきたいと回答した。しかし、口腔ケアに関する情報の少なさや、1名の入院患者に対し口腔ケアにかけられる所要時間が限られていること、多忙な業務の中で口腔ケアに多くの時間を費やせない現状が推察された。

### 緒 言

誤嚥性肺炎の予防における口腔ケアの効果に関する報告が数多くなされ、全身管理における口腔ケアの重要性および必要性が認識されるようになってき

た<sup>1-4)</sup>。また、口腔ケアを行うことで、心疾患の予防や認知症の予防に効果があり<sup>2)</sup>、専門的口腔ケアを実施することで熱発の頻度や、肺炎のリスクを減らすことができ、ADLの改善にも効果があると報告されている<sup>5,6)</sup>。このように、口腔ケアは入院患者への不可欠なケアとして位置づけされるようになってきている。東京歯科大学市川総合病院においても、日常的口腔ケアは看護師が担当しているが、必要に応じて歯科医師、歯科衛生士による専門的口腔ケアを行っている。入院患者に対し、より効果的な口腔ケアを提供するためには、歯科医師・歯科衛生士による専門的口腔ケアと看護師による日常的口腔ケアが十分に連携することが不可欠である。そこで、看護師による日常的口腔ケアの実施状況と口腔ケアに対する知識、意識を把握したうえで看護師と協力、連携し、入院患者によりよい口腔ケアを提供するために、当院の入院患者に対する口腔ケアの取り組みについてアンケート調査を行い、検討したので報告する。

### 対象および方法

対象は、平成15年4月現在、東京歯科大学市川総合病院の病棟に2年以上勤務している看護師182名である。対象看護師の性別は、全て女性であった。無記名記入方式の質問用紙を用いて口腔ケアに関するアンケート調査を行った。調査内容は、現在病棟で看護師が提供している口腔ケアについて、効果、意識、知識、方法、興味についての22設問から構成した。アンケートは配布2週間後に回収した。その

キーワード：口腔ケア 看護師 アンケート調査

<sup>1)</sup>東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科

<sup>2)</sup>東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座

<sup>3)</sup>東京歯科大学市川総合病院看護部

<sup>4)</sup>東京歯科大学水道橋病院看護部

<sup>5)</sup>東京歯科大学衛生学講座

(2006年5月15日受付)

(2006年6月23日受理)

別刷請求先：〒272 8513 市川市菅野5-11-13

東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科 伊多波怜子

結果182名中160名から回答が得られた(回収率87.9%)。回答のあった160名の看護師の平均年齢は28.4歳で、平均看護師歴は5.7年であった。

**結果**

図1は口腔ケアの実施に関する意識について示したものである。入院患者の口腔ケアの必要性については、有効回答数159名で「とても必要と思う」が57名(36%)、「必要と思う」が81名(51%)、「少し必要と思う」が21名(13%)であった。ほぼ全ての看護師が口腔ケアの必要性を感じていた。

また、1日に必要と思われる口腔ケアの回数は、有効回答数153名で「4回」が19名(12%)、「3回」が114名(75%)、「2回」が12名(8%)、「1回」が7名(4%)、「0回」が1名(1%)であった。9割近くの看護師が1日3回以上の口腔ケアの必要性を感じていた。

さらに、1名の患者にかけることが可能な口腔ケアの時間は、有効回答数155名で「10~15分」が9名(6%)、「5~10分」が60名(39%)、「5分以内」が86名(55%)であった。半数以上の看護師は口腔ケアにかかる時間が5分以内である。

図2は口腔ケアの実施状況について示したものである。1日の口腔ケアの実施状況は、有効回答数155名で「ほぼ必ず行っている」が102名(66%)、「時々行っている」が47名(30%)、「全く行っていない」が6名(4%)であった。ほとんどの看護師が1日1回は口腔ケアを実施していることが示された。

また、実際に1日に行っている口腔ケアの回数は、

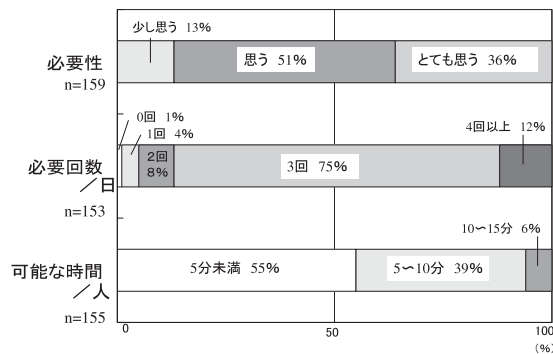


図1 口腔ケアの実施に関する意識

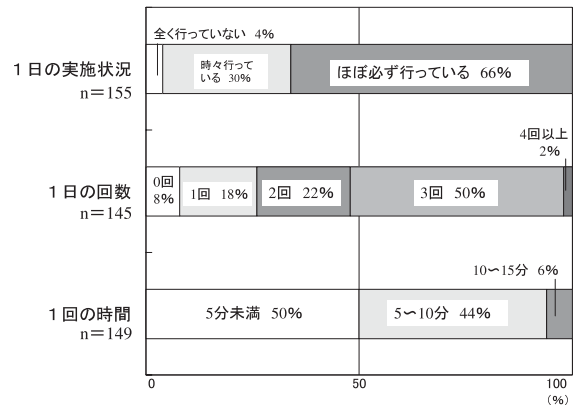


図2 口腔ケアの実施状況

有効回答数145名で「4回」が3名(2%)、「3回」が72名(50%)、「2回」が32名(22%)、「1回」が26名(18%)、「0回」が12名(8%)であった。セルフケア困難な患者に対して半数以上の看護師が3回以上実施していた。実際1日に行っている口腔ケアの実施回数と、必要と考えている必要回数(図1)を比較するとX<sup>2</sup>検定により、両者の出現する割合(比率、%)の差が有意に認められるかを検定した結果、実施している回数が有意に少なかった(P<0.05)。

さらに、実際に1名の患者の口腔ケアに要した時間をみると、有効回答数149名で「10~15分」が9名(6%)、「5~10分」が65名(44%)、「5分以内」が75名(50%)であった。実施している患者については半数が5分以内であった。

図3は、有歯顎者および無歯顎者をあわせた口腔ケアの方法について示したものである。口腔ケアの

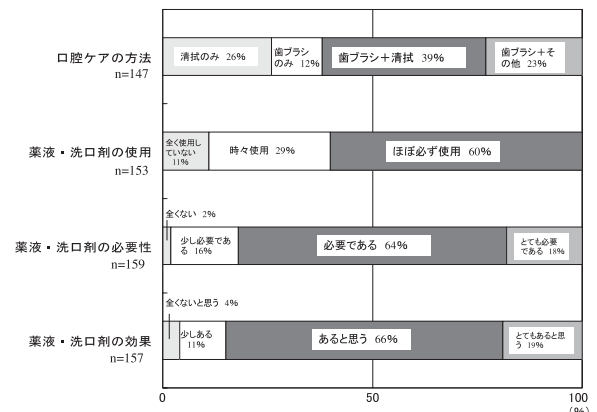


図3 口腔ケアの方法

方法に関しては、有効回答数147名で、「歯ブラシおよび清拭」が58名(39%)と最も多く、次いで「清拭のみ」が38名(26%)、「歯ブラシおよびその他」が34名(23%)、「歯ブラシのみ」が17名(12%)であった。70%以上の看護師が歯ブラシを使用した口腔ケアを行っていた。

薬液・洗口剤の使用状況については、有効回答数153名で、「ほぼ必ず使用している」が92名(60%)、「時々使用している」との回答が45名(29%)、「全く使用していない」との回答が17名(11%)であった。90%近くの看護師は薬液あるいは洗口液を使用した口腔ケアを行っていた。主に用いられている薬液はポピドンヨード、塩化ベンゼトニウムであった。

また、薬液・洗口剤の必要性については、有効回答数159名で、「とても必要である」が28名(18%)、「必要である」が102名(64%)、「少し必要である」が26名(16%)、「全く必要でない」との回答が3名(2%)であった。大部分の看護師が薬液・洗口液の必要性を認識していた。

さらに、薬液・洗口剤の実際の効果については、有効回答数157名で、感染症に対し「とても効果がある」が30名(19%)、「効果がある」が103名(66%)、「少し効果がある」が18名(11%)、「全く効果がない」が6名(4%)であった。85%の看護師が薬液・洗口剤の効果について実感していた。

図4は口腔ケアの担当者の認識について複数回答による結果を示したものである。口腔ケアは主として

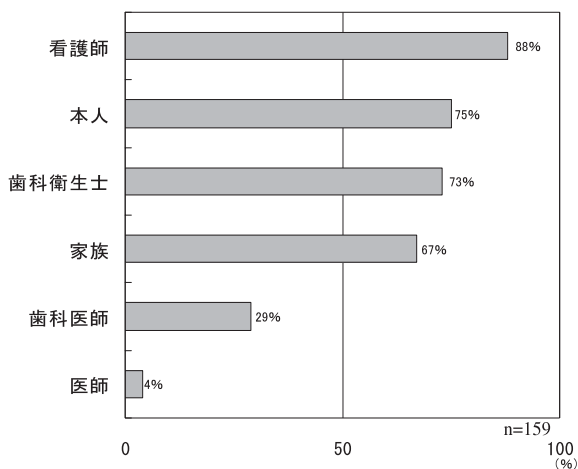


図4 入院患者の口腔ケアは主に誰が行うべきか (複数回答)

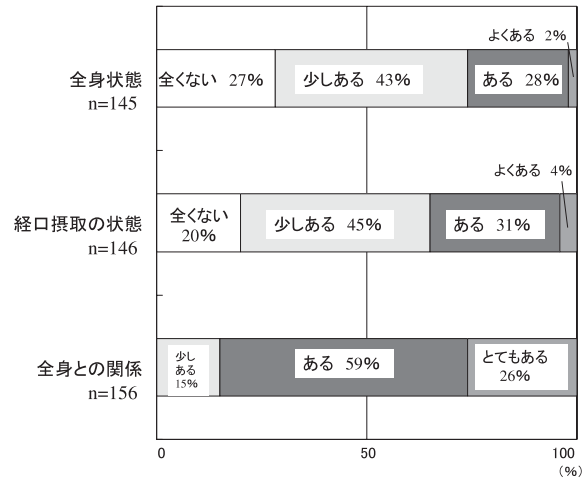


図5 口腔清掃状態と全身状態に関する認識

誰が行うべきかとの設問では、有効回答数159名で、「看護師」との回答が最も多く140名(88%)、「本人」119名(75%)、「歯科衛生士」116名(73%)、「家族」106名(67%)、「歯科医師」46名(29%)、「医師」7名(4%)であった。大部分の看護師が口腔ケアも看護師の仕事であると認識していた。

図5は口腔清掃状態と全身状態に関する実際の効果の経験について示したものである。口腔清掃状態が良くなったことで、全身状態が良くなったと感じたことがあるかとの設問では、有効回答数145名で、「よくある」と回答したのは3名(2%)、「ある」と回答したのが40名(28%)、「少しある」と回答したのが63名(45%)、「全くない」と回答したのが39名(27%)であった。7割以上の看護師が口腔清掃状態と全身状態との関係を意識していた。

また、口腔衛生状態と経口摂取に関する実際の効果の経験では、有効回答数146名で、「よくある」が7名(4%)、「ある」が45名(31%)、「少しある」が63名(45%)、「全くない」が29名(20%)であった。8割の看護師が口腔清掃状態を改善したことで経口摂取が改善したことを経験していた。

さらに、口腔清掃状態と全身の関わりの有無については、有効回答数156名で、「とても関係がある」が41名(26%)、「関係ある」が92名(59%)、「少し関係ある」が23名(15%)であり、全ての看護師が口腔衛生状態と全身の関わりはあると回答していた。

図6は口腔ケアに対する興味、今後の意向および

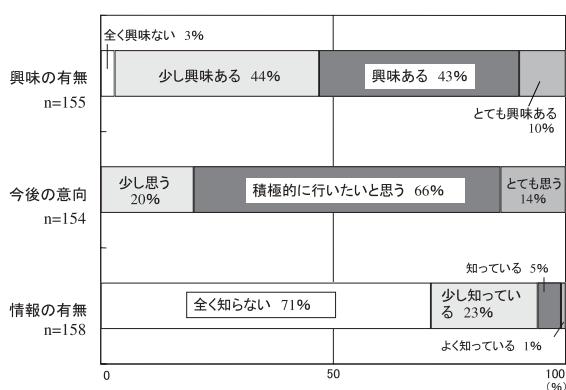


図6 口腔ケアに対する興味・意向

情報の有無について示したものである。口腔ケアに対する関心については、有効回答数155名で、「とても興味がある」が15名(10%)、「興味ある」が66名(43%)、「少し興味ある」が69名(44%)、「全くない」が5名(3%)であった。ほとんどの看護師は口腔ケアに対して関心を持っていた。

また、今後の口腔ケア実施に対する意向に関しては、有効回答数154名で、「積極的に行っていきたい」ととても思う」が21名(14%)、「行っていきたい」が101名(66%)、「少し思う」が32名(20%)であった。80%以上の看護師が入院患者に対する口腔ケアを今後も行っていきたいと回答していた。

しかしながら、他施設で実施されている口腔ケアの情報の有無については、有効回答数158名で、「よく知っている」が1名(1%)、「知っている」が8名(5%)、「少し知っている」が37名(23%)、「全く知らない」が112名(71%)であった。ほとんどの看護師が、他施設でどのような口腔ケアが行われているか知らなかった。

## 考 察

口腔ケアはQOLの向上やADLの自立に大きく関わっていることが証明され<sup>2,4-6)</sup>、口腔ケアの必要性が医療・保健・福祉の現場で認識されるようになってきた。また、口腔ケアと誤嚥性肺炎に関する研究、報告も多くなされている<sup>1,2,5)</sup>。今回のアンケート調査の結果では、口腔ケアの必要性を全ての看護師が感じており、本対象者の口腔ケア実施に対する意識は高いと考えられた。一方、実際の実施状況では、口腔ケアをほぼ必ず行っていると回答したのは

66%で、半数以上が5分以内であり、時々行っていると回答した30%の看護師は、毎日の業務の中で必ずしも口腔ケアを行っていないことが示唆された。また、全く行っていない4%はNICU(新生児集中治療室)勤務の看護師で口腔ケアの必要性がないとの回答であった。

看護師は、繁雑な日常の業務の中で自ら必要と思われる回数の口腔ケアは提供できないものの、実施可能な時間があれば最大限の時間を使って口腔ケアを行っていることが示唆されるとともに、口腔ケアに多くの時間を費やせない実情が推察された。

薬液・洗口剤の必要性を98%、効果を96%の看護師が認識しているのに対して、11%の看護師が薬液・洗口剤を全く使用していないと回答していることから、口腔ケア方法や手順が確立されていないことや、コストの面にも問題があることが推測された。

口腔ケアの主な担当者は、「歯科衛生士」と73%の看護師が回答していたが、歯科衛生士のみで入院患者全ての口腔ケアを担当することは困難であり、歯科衛生士の行う専門的口腔ケアと看護師の行う日常的口腔ケアの業務分担による連携が必要と考えられた。日常的口腔ケアと専門的口腔ケアの認識の違いについては、口腔ケアの必要性を全ての看護師が十分認識していることから、日常的口腔ケアと専門的口腔ケアの違いの理解を含め、口腔ケアに関する啓発を看護師に行っていく必要があると考えられた。一方で、口腔ケアの主な担当者について「本人」75%、「家族」67%と多くの回答率がみられることから、退院後の自立支援という観点からも、家族およびセルフケア可能な患者に対して、指導・教育をしていく必要性が考えられた。

口腔清掃状態と全身状態の関わりについては、100%の看護師が関わりはありと回答しており、実際に73%の看護師は口腔清掃状態が改善されることにより全身状態が良くなったと感じている。つまり、ほとんどの看護師が口腔清掃状態が改善したことにより、全身状態が改善することを経験的に認識している。しかし、口腔ケアの実務については十分とはいえ、多忙で複雑な業務が足かせとなっている現状が推察された。このことは、看護師のモチベーションにも影響すると思われる、口腔ケアの実施回数や、実施時間に大きく影響しているのではないかと考え

られた。

口腔ケアに対する関心については、97%の看護師が興味があると回答し、今後も積極的に取り組みたいと100%の看護師が回答している。29%の看護師が、他施設で行われている口腔ケアに対する情報を、看護雑誌や看護師仲間から得ている一方で、口腔ケアに関する情報を71%の看護師が知らないと回答していることから、口腔ケアに対する講演会・実技研修など歯科側からの情報提供が必要であることが示唆された。

これに対しては、現状以上に口腔ケアの目的や手順の説明、具体的な症例やデータなどの提示をしていくことで、看護師の口腔ケアに対するモチベーションを、上げることができるのではないかと考えられた。

今回のように、病棟勤務看護師に対して行った、入院患者に対する口腔ケアの取り組みについてのアンケート調査報告は少ない。今回の調査結果を十分に踏まえ今後は、歯科衛生士と看護師の有機的な連携の中でより良い口腔ケアの実施に向けて、チーム医療の確立が必要であり、歯科衛生士も全身の把握やそれに対する対応など看護師に依存しないよう知識をつけ、全身状態の把握に努め、看護師との連携を密にし、症例ごとに相談し解決する必要があると考えられた。

## 結 論

今回のアンケート調査により、日常的口腔ケアを行う看護師の口腔ケアに対する意識、知識、方法、内容を把握することができた。

病棟看護師の入院患者の口腔ケアに対する意識は

高く、口腔ケアの必要性を感じている看護師が多かった。その一方では、口腔ケアの実施時間、実施回数に限られていることや、情報が少ないことがわかった。このことから看護師に対して、歯科からの情報発進が必要であることが示唆された。今後は、口腔ケア教育を定期的に行うとともに、看護師の新人研修にも取り入れ、充実した口腔ケアを提供する必要がある。

本論文の要旨は、第277回東京歯科大学学会例会(2004年6月5日、千葉)において発表した。

## 謝 辞

本調査を行うにあたり、御協力いただきました東京歯科大学市川総合病院看護部の皆様に厚く謝意を表します。

## 文 献

- 1) 米山武義：口腔ケアと高齢者のQOL 誤嚥性肺炎予防における口腔ケアの効果, 老年歯学, 38: 476-477, 2001.
- 2) 米山武義, 吉田光由, 佐々木英忠, 橋本賢二, 三宅洋一郎, 向井美恵, 渡辺 誠, 赤川安正: 要介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究, 日歯医学会誌, 20: 58-68, 2001.
- 3) Yoneyama Takeyosi: Oral care reduces pneumonia in nursing homes, Am J Geriatrics Society 50: 430-433, 2002.
- 4) 曾山善之, 平田米里, 浦崎裕之, 中川秀昭: 特別養護老人ホームにおける高齢者の全身状況口腔内状況と口腔清掃自立度について, 老年歯学, 17: 281-288, 2003.
- 5) Ohsawa Takayuki, Yoneyama Takeyosi, Hasimoto Kenji, Kubota Eriko, Itou Mituhiro, Yoshida Kazu-ichi: 介護施設でのADLに及ぼす専門的口腔ケアの効果, The Bulletin of Kanagawa Dental College 31: 51-54, 2003.
- 6) 多田章夫, 花田信弘, 西村 明: 高齢者の口腔保健状態が日常生活自立度に及ぼす影響, 厚生指標, 46: 19-24, 1999.

Survey on inpatient oral health care by nurses  
Based on questionnaire to nurses

Reiko ITABA<sup>1)</sup>, Saori OKUI<sup>1)</sup>, Ai GOHARA<sup>1)</sup>, Youko TAKESITA<sup>1)</sup>  
Rina BABA<sup>1)</sup>, Miwa IWASAKI<sup>1)</sup>, Hiroko FUJIHARA<sup>1)</sup>, Sachiko TAKAGI<sup>2)</sup>  
Hiroshi OTUKA<sup>2)</sup>, Chika KURAMOTO<sup>2)</sup>, Yutaka WATANABE<sup>2)</sup>, Morio TONOKI<sup>2)</sup>  
Gen-yuki YAMANE<sup>2)</sup>, Michiko SONODA<sup>3)</sup>, Tomiko ADACHI<sup>3)</sup>  
Fukuyo SUZUKI<sup>4)</sup>, Naoki SUGIHARA<sup>5)</sup>, Takashi MATSUKUBO<sup>5)</sup>

<sup>1)</sup>Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Ichikawa General Hospital, Tokyo Dental College

<sup>2)</sup>Department of Oral Medicine/Oral and Maxillofacial Surgery, Tokyo Dental College

<sup>3)</sup>Department of Nursing, Ichikawa General Hospital, Tokyo Dental College

<sup>4)</sup>Department of Nursing, Suidoubashi Hospital, Tokyo Dental College

<sup>5)</sup>Department of Epidemiology and Public Health, Tokyo Dental College

**Key words** : Oral health care, Nurse, Questionnaire

The purpose of this study was to determine the state of routine oral care performed by nurses , and evaluate their knowledge and awareness of oral care .

A questionnaire was given to 182 female nurses( mean age , 28.4 years )working on university hospital wardsfor more than 2 years . Responses were received from 160 nurses( 87.9% ) .

With regard to oral care , 87% of the nurses answered that it was necessary , and the remaining 13% answered that it was necessary to some degree , indicating that all of the nurses were aware of the necessity of oral care . Oral care was performed almost all the time by 66% of the nurses , but less frequently by 30% of the nurses . Eighty-seven percent of the nurses considered that performance of oral care 3 or more times per day was necessary for each patient , but only 52% performed it(  $p<0.05$  ) . The time spent on oral care in each patient was more than 10 min for 6% of the nurses , 5 - 10 min for 44% , and within 5 min for 50% . Seventy-one percent of the nurses had not obtained any information on oral care .

Ward nurses were aware of the necessity of oral care , and answered that they would perform sufficient oral care . However , this investigation demonstrated that there was little information availablethe nurses on oral care and that insufficient time was spent on providing oral care .

( *The Shikwa Gakuho* , 106 : 267 ~ 272 , 2006 )